

「慶北大学校サマースクール参加報告書」

京都大学経済学部・経済経営学科4年 伊藤智康

私は当初、自身の知見や経験をより一層深化させ、自己成長を図るだけではなく、日韓間の異文化交流を通じた共存共栄に寄与したいと考え、本プログラムに参加した。そして、そのような高い参加意欲の下、韓国語授業だけではなく、テコンドー、韓紙、韓服、韓国料理、陶磁器などの異文化体験や慶州や釜山などテグ以外の都市にも積極的に赴いた。その結果、多くの人々との交流を通じて、上記目的の達成以外に2つのことを再認識した。

一つ目は、語学力（コミュニケーション）において重要なことは、試験の成績や資格ではなく、自分の知っている表現や単語をどれだけ積極的に使おうとするのか、そして、どれだけ意欲的にその外国語を学ぼうとするのか、ということである。失敗を恐れる必要はないのではないか。なぜなら、ネイティブスピーカーではないのだから。

二つ目は、日本・韓国や日本人・韓国人と言うように両者を比較して物事を説明する場面が多いが、必ずしも区別しなくてもいいのではないかと。なぜなら、私たちは東アジア・アジア・人類というように同じグループに属している場合もあるからである。つまり、私たちは家族であり兄弟である、と本当に心から感じるようになった。

そして、来年4月から旅行業界で働く私にとって、重要なパートナーである韓国に赴いた今回の経験は必ず有意義なものになるはずである。さらに、プライベートだけではなく一社会人としても日韓間の架け橋になれることに非常に満足しており、自身のように日韓間の架け橋になってくれる人を出来る限り多く生み出したい。その地道な努力が本当の意味で両国の国民がお互いに家族や兄弟と感ずるための第一歩であると考えている。

最後に、今回出会った多くの人々との交流をいつまでも持続し、私の目指す「ヒト」の相互交流による異文化理解と共存共栄を追求し続ける決意をした。

最高の仲間と最高の時間を共有できたことに心から感謝します。